東京国立近代美術館の七〇年

年	月日	出来事	資料番号	作品図版
一九五一年		国立近代美術館設置に必要な諸事項を調査審議するため、文部省に国立近代美術館設置準備会が置かれた。		
一九五二年	三月	日活本社ビルを八二三〇〇万円で購入し、一七〇〇万円で建築家前川國男の設計により、改装工事を行うことになった。		
	二月二日	開館、これを記念して第一回展「日本近代美術展」近代絵画の回顧と展望」を開催した。	01	
		収集活動を開始。年間予算五〇〇万円で日本画、洋画等二三点を購入した。		
		村上華岳(日高河清姫図)二九九年、安井曾太郎(金魚)一九二四年、等。		
		文部省管理換により日本画、洋画等一七八点を受け入れた。		
		和田三造(南風)(一九〇七年)、荻原守衛(女)(一九一〇年)、上村松園(母子)(一九三四年)、等。		
		国立近代美術館ニュース(現代の眼)の刊行を開始した。		
一九五四年		古賀春江関係作品と資料二七〇点を収蔵した(高松太郎氏寄贈および購入)。	02	
一九五五年		読売新聞社との共催で東京国際版画ビエンナーレが開催された(一九七九年まで隔年開催)。		
一九五七年		二館目の国立美術館として、国立西洋美術館が開館した。		
一九五九年		北脇昇関係作品と資料一〇七点を収蔵した(北脇かね氏寄贈および購入)。		
一九六〇年		藤懸静也コレクション約一〇〇〇点を超える版画を収蔵した(藤懸さと氏寄贈および購入)。		
		第二期増改修工事により、初めて常設展用のギャラリーが設けられた(三四四㎡)。		
一九六二年		国立近代美術館京都分館が設置された。		
一九六三年	三月一日	東京国立博物館と相互に所蔵美術品の管理換を行い、同館から、日本画、洋画、素描、彫刻計二七八点を受け入れ、本館所蔵の日本画、洋画、水彩計二六点を同館へ引き渡した。	03	
一九六四年	三月二八日	石橋正二郎評議員の寄贈による東京国立近代美術館の「彼工寄贈展」が行われた。		
一九六七年	一月一七日	新館の開館式を行った。これを記念して「現代世界美術展 東と西の対話」を開催した。	04	
	六月一日	イサム・ノグチ「門」を購入・設置した。	05	
		梅原龍三郎氏から代表作を含む洋画等一四点、東山魁夷氏から代表作五点、東京国立近代美術館となった(三四四㎡)の寄贈を受けた。		
一九六九年	四月一日	国立近代美術館にフィルムセンターが設置された。		
	五月七日	石橋正二郎評議員の寄贈による東京国立近代美術館の彼工寄贈展が行われた。		
	六月一五日	横山大観(生々流転)(一九二三年)が重要文化財に指定された(一九七二年度購入)。		
		東京国立近代美術館のコレクション、「現代の眼」近代日本の美術から」展を開催した。	06	
	三月	終戦時アメリカに接収された絵画(五三点が送還、一無期限貸与)された。		
一九七〇年		梅原龍三郎氏から「道」(一九五〇年)ほか日本画、下図・スケッチ等五一点の寄贈を受けた。		
一九七一年	六月二二日	岸田劉生「麗子微笑」(一九二五年)および川合玉堂「行く春」(一九二七年)が重要文化財に指定された。		
一九七二年		開館二〇年を記念し、「現代の眼」近代日本の美術から」展を開催した。	07	
一九七三年	一月八日	「一九七〇年に重要文化財に指定された(旧近衛師団司令部庁舎は東京国立近代美術館分館として所管換され、文化庁は、同建物の文化財保存修理工事に着手した。		
		海外作品の双集を本格的に開始した。		
		「一九七二年、アルベール・グレーズ(二人の裸婦の構成)(一九二一年)、マシリリ・ルソー(第二二回アンデパンダン展に参加するも芸術家連を導く自由の女神)(一九二一年)、等。		
		「一九七五年、ピエール・ドーニャ(リズム 蝶型)(一九五三年)、等。		
一九七七年	六月二二日	中村錦一エロシンコン氏の像(一九二〇年)が重要文化財に指定された。		
	一〇月一四日	四館目の国立近代美術館として、国立国際美術館が開館した。		
	一二月一四日	分室(旧近衛師団司令部庁舎)の工事が完了し、工芸館として開館した。これを記念して「現代日本工芸の秀作」展を開催した。	08	
一九七九年	六月六日	菱田春草(黒猫)(一九〇七年)が重要文化財に指定された。		
		「一九七九年三月、七日以来本館前庭地下に建設中であった新収蔵庫(九九〇㎡)が竣工した。なお、工事中、先土器時代以降近世に至る遺跡が発見され、調査委員会を設けて発掘調査を行った。	09	
一九八一年	三月六日	「一九八一年、先土器時代以降近世に至る遺跡が発見され、調査委員会を設けて発掘調査を行った。		
	五月二二日	開館三〇周年にあたり、所蔵作品による記念展として、「近代日本の美術 「九四五年以後」	10	
		「近代日本の美術」「九四五年以前」、「近代日本の工芸」を開催した。		
	六月五日	菱田春草(王昭君)(一九〇七年)が重要文化財に指定された(二〇四年度寄託)。		
一九八七年		「東京国立近代美術館研究紀要」の刊行を開始した。		
一九九一年		若林奮賞料・水死、素描、制作メモなど二八二七点を収蔵した。		
一九九三年		岸田劉生関係作品と資料約六〇〇点を収蔵した(岸田麟之助氏遺贈)。		
一九九五年	三月三日	「一九八七年度より実施していた美術館の大規模改修工事が終了した。		
		写真部門、デザイン部門を開設した。フィルムセンター、写真部門の最初の展覧会として「東京国立近代美術館と写真一九五三—一九九五」を開催した。		
一九九九年	六月七日	「一九九九年度より村上華岳(八日月清姫図)(一九一七年)が重要文化財に指定された。		
	七月二日	東京国立近代美術館(本館)増改築工事のため、休館となる。		
二〇〇〇年	六月二七日	新海竹太郎(ゆあみ)(一九〇七年)が重要文化財に指定された。		
	二月四日	萬鉄五郎(裸体美人)(一九一三年)が重要文化財に指定された。		
二〇〇一年		京都国立近代美術館、国立西洋美術館および国立国際美術館とともに独立行政法人国立美術館の機関となった。	11	
	四月一日	「一九九九年八月五日に着工した本館改修工事が完了し、九月二六日に彼工式を行った。		
	九月二六日	本館のリニューアル・オープン記念展「未来の世紀 二〇世紀美術がのこすもの」を開催した。	12	
	一月一六日	東京国立近代美術館アートライブラリが開室した。		
	一〇月一二日	開館五〇周年にあたり、本館で「コレクションのあゆみ」展を開催した。	13	
二〇〇三年		東京国立近代美術館蔵書検索システム(OPAC)を公開した。		
	一月一〇日	解説ボランティア「MOMAT」ガイドスタッフ」による所蔵品ガイドを開始した。		
	五月二三日	鏑木清方(三遊亭円朝像)(一九三〇年)が重要文化財に指定された。		
	五月二九日	映像作品として初めて、高嶺格(God Bless America)(二〇〇二年)を収蔵した。		
二〇〇四年		工芸館で、ボランティアガイドスタッフによるガイド「タッチ&トーク」を開始した。		
	六月九日	独立行政法人国立美術館の「所蔵作品総合目録検索システム」が公開された。		
二〇〇六年	一月	五館目の国立美術館として、国立新美術館が開館した。		
二〇〇七年	一月二二日	原田直次郎(騎龍観音)(一八九七年)が重要文化財に指定された(一九七九年度寄託)。		
	六月八日	工芸館開館三〇周年にあたり、本館講堂で開館三〇周年記念式典を行い、工芸館で「工芸館開館三〇周年記念展」を開催した。		
	一〇月九日	所蔵作品展および特別展の高校生および八歳未満の観覧料金を無料化した。		
二〇〇八年		「フィルムセンターの「紅葉狩」(二九九九年、坐田常吉撮影)が映画フィルムとして初めて重要文化財に指定された。		
	二月二六日	東京国立近代美術館が七〇周年を迎える。		
二〇〇九年	七月一〇日	東日本大震災により、開催中の「生誕一〇〇年 岡本太郎展」を六日間臨時休館した。		
	三月一二日—一八日	上村松園(焔子)(二九三四年)と安田靫彦(黄瀬川陣)(一九四〇—四年)が重要文化財に指定された。		
二〇一〇年	六月二七日	開館六〇周年にあたり、本館で、美術にふれる「ベストセレクション日本美術の「〇〇年」を開催した。	14	
	一〇月一六日	所蔵品ギャラリーの大規模なリニューアルを行い、四階にハイライトコーナーを設置した。		
二〇一八年		フィルムセンターは、独立して国立映画アーカイブとなった(六館目の国立美術館)。		
	四月一日	和田三造(南風)(一九〇七年)が重要文化財に指定された。		
二〇一九年	一〇月三一日	東京国立近代美術館工芸館が、移転に向け、東京での活動を終了した。		
	二月二六日	新型コロナウイルスの影響により臨時休館した。「ビューター・ドイツ」展で、会場の3DVRをオンライン上で無料公開した。		
	五月	国立工芸館(東京国立近代美術館工芸館)が、石川県金沢市で開館した。開館記念展として「工の芸術 素材・わざ・風土」を開催した。		
	一〇月一五日	東京国立近代美術館が七〇周年を迎える。		
二〇二一年				
	二月一日			
二〇二三年				

本館の入場者数(単計)(千人)